



明石市立
文化博物館

文化博物館だより 第292号

2009年9月9日

みなさん、こんにちは。企画展開幕の前日、特急電車に乗り、遠路、永澤永信さんが来館されました。次回、来られるのは、13日のギャラリートークの日です。

● 煎茶の祖・隠元の茶罐

今月5日(土)、1階『煎茶の器展』会場でギャラリートークが行われました。

煎茶は、江戸時代に日本に流入し、その祖となるのが、展示室に入ってすぐに掛けられた軸の人物、隠元だそうです。黄檗宗を広めるために、中国から渡ってきた隠元たちが嗜んだ茶が、日本に次第に広まり、器などの道具も真似て生産されるようになったのだそうです。

今回の展示の目玉である紫泥大茶罐ちやくわんと紫泥茶罐は、隠元が使っていたもの。底部に炭の跡があり、直接火にかけての使用がうかがわれます。展示では、中身はご覧いただけませんが、紫泥茶罐には茶葉も残っているそうです。

今回のギャラリートークに集まってくださったのは、女性ばかり。急須に茶葉と湯を注いでお茶を楽しむ方法は、今でも日常的に行われていますが、食卓を準備することが多い女性の方が、より煎茶を身近に感じるのかもしれない。



煎茶に関する道具のセット(「煎茶提籃皆具」)の前で

● 第56回市美展の募集要項を置いています

例年、当館2階ギャラリーを会場として行われている明石市美術展(主催:明石市・明石市文化団体連合会)。今年の募集要項ができあがり、受付前に置いています。当館の他にも、生涯学習センターや各市民センターなどで手に入れることができます。



作品受付は、11月14日(土)午後1時~5時、同15日(日)午前10時~12時。応募資格は、県内在住、または在勤の15歳以上の方で、出品料が500円かかります。詳しくは、市のホームページでご覧いただけます。みなさんも、今年は、芸術を鑑賞する立場から、作品を生み出す立場へ、踏み入れてはいかがでしょうか。